

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成24年11月22日 (2012.11.22)

【公開番号】特開2011-75734(P2011-75734A)

【公開日】平成23年4月14日 (2011.4.14)

【年通号数】公開・登録公報2011-015

【出願番号】特願2009-225667(P2009-225667)

【国際特許分類】

G 0 3 B 17/02 (2006.01)

H 0 4 N 5/232 (2006.01)

G 0 3 B 5/08 (2006.01)

G 0 3 B 17/14 (2006.01)

【F I】

G 0 3 B 17/02

H 0 4 N 5/232 H

G 0 3 B 5/08

G 0 3 B 17/14

【手続補正書】

【提出日】平成24年9月28日 (2012.9.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

次に図 2、図 3、図 5 を参照して、撮像素子 1 0 2 のウォブリングに関連する構成を更に説明する。2 0 1 は、カメラ本体 1 0 0 を構成する部品を支持するカメラ筐体部である。カメラ筐体部 2 0 1 は、撮影者が撮影時に保持する不図示のグリップ部と連結された構成となっている。カメラ筐体部 2 0 1 に対して固定されたガイド軸は、光軸方向と平行に 2 本配置されている。ここで、ガイド軸 2 1 2 とシャッター 1 0 1 が図 2 で重なって見えている部分について、図 3 (a) を用いて説明する。図 3 (a) は、シャッター 1 0 1 と後述のストッパ 2 1 3 を透視した形で、図 2 を光軸方向から見た図である。2 2 6 は、撮像素子 1 0 2 に設置され、撮影レンズ 1 5 0 を通過した光束を電気信号へと変換する光電変換部である。シャッター 1 0 1 は、この光電変換部 2 2 6 を覆う様に設置される。一方、ガイド軸 2 1 2 は、撮像素子 1 0 2 の端部付近に設置され、光軸方向から見てシャッター 1 0 1 とは重ならない。撮像素子 1 0 2 が、このガイド軸 2 1 2 に沿って円滑に光軸方向に可動で進退可能な構成となっている。ストッパ 2 1 3 は、ガイド軸 2 1 2 に固定され、撮像素子 1 0 2 がシャッター 1 0 1 へ衝突するのを防止する。撮像素子 1 0 2 とガイド軸 2 1 2 の接触部分には、グリース等の潤滑剤が塗布されていてもよい。ストッパ 2 1 3 は、ゴム部材や樹脂部材等から構成され、撮像素子 1 0 2 がストッパ 2 1 3 へ衝突した際に撮像素子 1 0 2 が損傷されることを防止する。2 1 4 は、カメラ筐体部 2 0 1 に対して、光軸方向に調整可能に固定された調整ピンである。調整ピン 2 1 4 は撮像素子 1 0 2 の平面と平行に 3 箇所配置される。撮像素子 1 0 2 と調整ピン 2 1 4 を互いに突き当たった状態で撮像素子 1 0 2 が光軸方向に対して正確に鉛直となる様に、調整ピン 2 1 4 の位置は調整される。調整ピン 2 1 4 は、ガイド軸 2 1 2 と撮像素子 1 0 2 が成す角度と連動して調整される構造となっていてよい。